

喫煙と飲酒に関する一考察

関口 雄哉（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 中藪 伸二

キーワード：未成年者 喫煙 飲酒 「授業書」方式

1. 緒言

現在の日本では未成年者の喫煙、飲酒は禁じられている。しかし、実際には未成年者で喫煙、飲酒を行なう人が沢山いる。喫煙における全国調査によると、男女とも学年が上がるにつれ喫煙経験者率、月喫煙者率（この30日に1度でも喫煙したもの＝中高生の喫煙者と定義）、毎日喫煙者率はいずれも上昇傾向にある。このような実態は、昨日まで煙草を吸ったこともお酒を飲んだこともない未成年者でもいつ始めてもおかしくないといえる。それを防止するために未成年者の意識を変えていく必要があると考える。未成年者は、喫煙、飲酒に対してどのような意識を持っているのか、また周りの環境がどのように影響しているのかを分析し、学校現場、特に義務教育である中学校で何を学ぶべきかを検討した。その上で、喫煙と健康、飲酒と健康についての保健教材案を「授業書」方式で提案することをこの研究の目的とした。

2. 研究方法

- ・文献等のデータを参考に、中学生らの喫煙、飲酒に関する実態の現在の傾向を調べ、考察する。
- ・現在の保健体育の教科書等から喫煙、飲酒と健康に関する教材を分析した上で、「授業書」方式で保健教材案を作成する。

3. 結果及び考察

未成年者の中にはなぜ喫煙、飲酒が禁

じられているのか理解できていない人も多く、その親も子どもの喫煙、飲酒を容認する傾向が示唆された。本研究では、未成年者の喫煙、飲酒の体に及ぼす害や周りに与える影響、そしてどうすれば喫煙、飲酒を防止できるかを子どもたち自身が考えるような教材案の作成を試みた。未成年者の喫煙、飲酒の減少や大人になっても正しい知識・意識を持てることを目指して「授業書」方式での教材案を提示した。

4. まとめ

先行研究より、中学生で既に喫煙、飲酒経験を持つ生徒も見受けられた。そこで、本研究では、特に中学生を対象とした喫煙、飲酒と健康についての「授業書」方式での保健教材案作成を試みた。今の中学生がもう一度喫煙、飲酒に対して考え直し、禁止されている意味を理解するとともに生徒が保護者になった時に正しい知識等を教えることに役立てて欲しい。

参考文献

- 川端徹朗 他（2004）喫煙、飲酒薬物乱用防止に関する指導参考資料．財団法人日本学校保健会．
- 森昭三 他（2009）新中学保健体育．学習研究社．
- 大井田隆 他（2010）未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究．平成21年度総括研究報告書．